

第7回(仮称)市民活動推進条例検討会 記録

➤ 日時・場所

平成 28 年 8 月 13 日(土)9:00～11:00 823 会議室

➤ ワーク・発表まとめ

【条例名】

- ・鯖江は「市民主役条例」としているが、これは非常に良い名前だと思うし、シンポジウムで鯖江市長の話聞いた後も鯖江の資料を何度も読み返してみて、真似てもいいのではないかと思う。
- ・条例名は「鎌倉未来づくり参加条例」。鎌倉が平仮名でもいい。参加という言葉は他の言葉でも良い。子どもも大人も、自分は何もわかってないと思っている人でも言える。こうありたい、こうなってほしいということ、身近なことを提案すること、それが一人一人が参加することである。そういったことが認められていることが自分事になっているのかと思う。
- ・わたしたちの鎌倉条例
- ・自分たちのまちだから自分たちでなんとかやってみようという想いを遂げるための条例
- ・名前に説明文のようなことが入っているのも一つ。副題みたい。
- ・これほど長いと注目を浴びるかと思う。シンプルにするよりかえって分かりやすい。話題になる。タイトルで話題性があるのは良いと思う。
- ・先ほど条文が長ければ良いものではないと話が出たが、タイトルも短ければ良いというものではない。議会でも議長が読み上げるだけでも注目を浴びる。
- ・わがまち鎌倉をわたしたち自らがつくっていく条例
- ・「ごみのポイ捨て条例」など、条例名からでも意味が分かるものは他にもある。この条例名（「自分たちのまちだから自分たちでなんとかやってみようと思いと遂げるための条例」）から意気込みを感じる。条例名で興味を引くと中身を見てみようという気になる。
- ・名前と前文が長くて条文が短いと読んだ人はビックリするかも。関連する項目は一緒にまとめて簡潔にすると短くて済む。それも珍しくていい。
- ・「鎌倉市民自分事条例」というタイトルにするとして、自分事が出来ている人に改めて言っても“あ～そうですか”しかならない。行政にただやってもらう意識しかない市民、お客様意識の市民に対して、そうではなく自分たちで作っていかなければならないという、そういう人達に響く表現にしていかなければならない。
- ・「市民の自治」ということですね。みんなの意識にはいるかどうか。
- ・「自治」とは解釈がわかる部分。「自ら治める」でどこにもよらず、自分たちで考えていくということ。自分は 100 人居れば 100 通りの考え方があるので、そこを明らかにしていくことは難しいことだが、ここでは誰が見てもそこを見ている（同じ解釈となる）としないと分かりにくい。それがあればあとどんなものが出てきてもそこに立ち返って

いける。

- ・ 条例文では、なぜ今この条例が出来たのかという思いが打ち出せる方が良いのではないか。例えば「わたしたちのかまくら条例」「鎌倉みらいづくり参加条例」
- ・ 異例づくしかも知れないが、条例名を長いものにする。前文にボリュームを持たせて、条文はいくつかの項をまとめる。役割とは別々ではなく、皆繋がっている、同じなんだという、まとめるような形のもが良いのではないか。

【前文】

- ・ 「皆が主役」を子どもから大人まで分かるようにするにはどうしたらよいか？というところ普通は「わたしたち」。端的に言えば「わたし」。
- ・ 「わたしたち」「わたし」と言っても議会もあるし、職員もあるし、市民も市内市外の方がいる。
- ・ いかに市外の人を巻き込んでやっていくかを考えると、例えば「わたしたち職員は～したい」「わたしたち市議会議員は～したい」「わたし」の後に主体を入れることによって皆が中心になるのではないかと思う。一人一人が出来ることと言っても色々あり、行政が出来ることがあり、市民が出来ることがある、それぞれ違いはあっても、出来ることを一つ一つすくいあげていけるような内容になると皆さんにも読んでもらえると思う。
- ・ わたしたち、鎌倉に育ち、育てられ、学んで、生活している人はこうしましょう、こうありたい、という思いを入れることによって市民という言葉を使わずに、自分が主役だ、他人事ではない、ということが出せるのではないか。
- ・ 同じように今まで、「議員は」、「職員は」、という言葉も「わたしたち市議会議員は」「わたしたち職員は」と置き換えることが出来れば、壁を越えて、皆が条例の元で繋がって支え合っていけると前向き捉えることができる。
- ・ 条例は市長が提案するが、出来れば共同提案みたいにした。でもそうはいかないもの。ならば前文かどこかに一緒になって「わたしたち職員」とか「わたしたち鎌倉に住んでいる者」とかを入れておきたい。鎌倉で生まれ、育ち、学び、生活する、という当たり前前のことを使えば、「市民」という言葉を使わなくても良いのではないか。
- ・ 鎌倉に住んでいる人、鎌倉に育てられた人、困っている人を助けることが中心なのだ、困ってる人を助けることが生きがいなのだ、という人もいるから、そういうものを上手く取り入れられないかと思う。案は出ないけれど、形からいうとこういうものもあるのではないかと思う。
- ・ 他市と同じような条例の形にはしたくない。
- ・ 市民が輝ける街というのが、いい街づくりに繋がるのかと思う。「鎌倉市民が輝き、より良い鎌倉の未来を創るために」の言葉が入ると良い。
- ・ 「責務」みたいな話が入る方が良いという意見が出ていたが、そういうことでは、「誰もが暮らしやすい街を自らで創る責務を負う」、重たい言葉になってしまうが、「～覚悟を

持ち」「～思いを持ち」などそういう内容も必要ではないかと思う。

- ・鎌倉にはこれまでの色々な活動の蓄積があるということが意見の中に出ていたし、事務局の中にも出ていたが、それだけで終わってしまうと活動している人にはイメージが出来ても、活動をしていない大半の人にはイメージができない。何か具体的なものを挙げた方が良いのではないか。鎌倉の市民活動の近代、現代の中でいうと「御谷騒動」があり市民活動によってみどりを守ってくるなど、これまでの活動の蓄積の分かりやすい例があると良いかと思う。
- ・おやつ騒動、「ナショナルトラスト」を入れない理由はないと思う。今まで市民活動を推進するとか、NPOとか、一人一人が鎌倉のまちを創っていくという条例だが、鎌倉がこの世を動かした一大事件なので入れたい。
- ・「おやつ騒動」を始めとして、市民活動がこれだけ盛んで育ってきた街は、全国にもないことだから、それを前文に入れたいと思う。
- ・個人なのか団体なのか、という意見があったが、団体は個人の集まりであって、やはり一人一人の参加が基本。鎌倉を思う人が創っていく。具体的に書いて分かりやすくも大事だが、個人個人にもそれぞれ個性があり、顔があるので、鎌倉を思う人が良いと思う。
- ・「市民活動」という言葉自体にもどうかな？という思いがある。「市民活動」というと近代以降の気がするので、鎌倉というとお寺であり、武家社会であり、そういった所から引っ張ってきた方が良いと思う。
- ・歴史連動の文化を前文から打ち出していく方が、「鎌倉らしさ」が出るのではないかと思う。京都の公家社会に反発して出て、鎌倉に武家社会を創ったのだから、日本の転換点にもなった鎌倉だから、そういうことから自分達は出来るということを前文に思いを描いて載せると良い。そういう所からくと「鎌倉ブランド」という共感を皆から得られるのではないか。
- ・別荘時代から戦後近代時代から鎌倉では、市民活動が盛んであったという土地柄は歴史については触れるべき。丁寧に物語をつづる。世代間で、昔を知る世代は、昔はそうだったね、知らない世代は、昔はそうなんだ、と違いのある思いをそれぞれに感じる事ができると良い。歴史書とは言わないが、歴史が分かるようなことを繋いでいくようなことが大事。
- ・文化人。武家の街から一度は死んでしまった街が、別荘地となり、文化人が入ってきて復活した。そうやって変わってきたのは戦後になってである。
- ・鎌倉のブランドは、歴史、伝統、文化、武家社会、そういったことがあつての新しい社会だということは外せない。
- ・中世を始めとした街だが、その後の鎌倉市の発展の中で、明治時代の別荘時代、戦後を踏まえて、近代に向けて市民活動が盛んになってきた土地柄ということも前文の中にいれたい。
- ・鎌倉は古都と言われているけれど、元々鎌倉は古くて新しい街だったと思う。

- ・私たちは自分たちで自ら行動してきた、という自分たちに自負があること前文にいれてはと思う。
- ・前文には、鎌倉の思い、鎌倉らしさを絶対に書く必要がある。
- ・鎌倉の街を創っていくのはわたしたち一人一人である という思いを共有する。それが一番だと思う。これが目的なのか前文なのかはちょっと悩ましいところ。
- ・「鎌倉は愛する私たちの街なんだよ」温かい感じの条例にしたい。
- ・皆さんが自分の条例だと思えるような、分かりやすさとか、魂の部分と、これを元に動いていく実行性となれば良いと思う。
- ・お年寄りからこどもに配慮したわかりやすさ。
- ・条例が出来て終わりは避けたい。作ったものは動かしたい。
- ・時代は変わるというけれど、議会も市職員も変わっていく。
- ・言い方は固いが、継続して考える場を作る。ここで絶対言っておきたい。
- ・先日のシンポジウムでは、鯖江は国際スポーツ大会開催時に外国選手を受け入れたときに、大変だったから、おもてなしを通じて結束力が強まった。鎌倉は観光客が多くて同じような事情だけど、観光客のために何かしようと思わないだろうから、鯖江のように市民結束力が大事なのだと思う。この条例が結束力を促すきっかけになれば良い。大事なことだ。
- ・鎌倉市民性から鎌倉らしさを出せば、ここまでいけばすごいと思う。
- ・歴史を記した条例にすると同時に、驚くべきことにこういった条例が今までなかったのです、ということを入れて、逆手に取って市民にアピールしていく。
- ・人口の半分位にとうとう出来たか、と言ってもらえるくらいに精度が高いものにしたい。条例が出来ても大半の人は読まない。そういう無関心層に如何に関心を持ってもらうか。やはり自分たちの問題だから、今度こんな条例が出来たと知ってもらえるようアピールしたい。
- ・問題提起をするとか、日頃のこうあったら良いのと思うことを提案できることも参加に繋がる。それを実行する市民団体も参加しているということ。
- ・また活動していることを知って「いいね」というだけでも参加していることに繋がるのではないかな。興味を持った時点で参加。
- ・一つでも何か動いた、考えた、思った、という所からが、この条例を考える目的ではないのかと思う。そういう意識を持っている人を増やしていく。
- ・職員としては、この場に来て市民活動のイメージが 180 度変わった。こういう場に来ることがなかったから。今までは叩かれ続けているイメージしかなかったが、そういうところもあるけど、時々喧嘩をし、仲良く協力する。その話がここに載せられれば良いと思う。職員も市民も時には喧嘩もするけど、結局鎌倉が好きなんですよ！ということと協力しましょう。という「一緒にやろうよ条例」がいいね。
- ・基本的には、一番変えてはいけないもの。時代が変わると変わっていくものもあるが、

変えてはいけない根本の部分を書く。一番難しい。前文ニーズ。他の部分は時代が変わると色々解釈は変わるけど、いつも前文に立ち返って基づいて考えるとかいうことだよと説明できるものでないといけない。

- 何をやるかとするのか言えなければならない。市民の自主的な活動を尊敬する、尊重するというようなことが一番重要。それがあって初めて支援なり、協働なりの次のステップがある。
- 主語が誰かによって、後ろが変わってくる。そこで「わたしたち」と。
- この条例の在り方が行政に対して、方向性を示させるものなのか、計画的なものなのかにもよる。
- ここで前文に役所としての縛りが掛かってくる。
- 基本的には役所の縛りは必要になると思う。それが肝にあると思う。
- 条例を作ったあと、条例を見た人がそれを理解できるかどうか、読んでみようという気持ちを起こさせるかどうか、この「前文」の部分にあると思う。
- 何をしてもらえるか、ということが底流にあると思う。おかみが何かをしてくれるという江戸時代に戻ったような考え方で、役所と市民は対等であると書いていても、そこが抜けている。
- 絶対譲れないものって何か？10年経っても20年経っても変えてはいけないもの。
- 見直しをする部分は絶対にある。でも見直しをしてもここだけは変えてはいけない部分。その部分が「前文」に当たる。
- 基本、市民の自主的な地域貢献活動を尊重する。それがどんな活動であれ、どちらに向いているかは、違う話。「地域に貢献している」というのは一つのキーワードになる。
- 「地域貢献」も色々な取り方がある。だからこれをどう取っていくか。ここでいう「地域」とはすごく狭い地域と鎌倉全体を意味するのか？
- 全く相反する主張をする団体もある。市役所に反対する団体もあるし、それが社会貢献に違反する団体とは言えない。自然保護といっても自然を何の手も付けてはいけないと主張する団体と整理しながら使える森を作るといふ団体もある。安全安心の面で一定の保護措置は取っていくというのと、全く手を付けずにそのままにしておくというのもある。里山を大事にするというのと、ほっといてくれというのと、両方ある。
- 「絶対譲れないものは何か」というとボランティアは自分の意志で広がっていくものとしてあるが、“「私」発”というのがある。
- 誰を主語にするか？尊重するも誰が尊重するのか？尊重すると聞くと自分ではない誰かがということに聞こえる。
- この条例は行政を縛るものなのか、市民全体を縛るものなのかと事務局に聞いたところ、そこを考えていければ良いと。前のワークで出ていたのは、職員の意識を変えていきたいと。そうなると行政を縛るものとなる。どちらかというところの条例があるからちゃんとしないとダメでしょ！という職員側を鼓舞する。また現場の職員が動きやすくなるよ

うバックアップしていくということも。

- 鎌倉の街を良くしていく、というのが一番にある。
- 行政の立場から言うと、市民同士が反発しているテーマがあるが、あれはどちらを選択していくかということもある。基本的な行政側の考え方はあるけれど、通常はどちらかに傾いてしまう。その場合に、市民の考えを尊重していないと言われるのは現実的に一番つらい所ではある。多分プライオリティの高い順、例えば命、安全を考えて判断していくということが行政としてはある。
- 市民活動はそれぞれ思いがあって活動しているので、相反する団体が、一つになってくるとまだやりやすい、複数ありしかも微妙に異なる考えの場合に大変。でも、多様性があるから良さがある。
- 中間支援組織など、そういったことをとりまとめにしてくれる所を期待している。
- 市民の生活をがらんと変えるような街づくりをデザインする。それに向かった、30年後を見据えた考えで構築していく。そのデザインが長期に出ていけば市民も納得する。長期ビジョンのデザインが一番大事。長期ビジョンは皆で作る。でもある程度専門知識がないと。市民から集めてやるという方法もある。
- 長期ビジョンの街のデザイン。概略的な部分では都市マスタープランの中に一定の方針が示されている。でもここで論議するのは、その先の話だと思う。住民としてどうしていくのか？というのをどう意見集約していくことが次のテーマ。街のビジョンは、市民の意見をどう反映させるかということとセット。
- 大船の駅前（ビル化すること）もまだ行政が市民に納得してもらえらるような説明が出来ていない。目的が分からないと今の生活に市民が納得してしまうので変えられない。
- ちまちまとした市民活動を推進していくのか、街づくりを推進していくのか、そこまで踏み込んでいく必要がある。ちまちまとしたことに本質があったりもする。だからそこも大事にしたい。
- 一番大事なものは皆がブツブツと思っていること、つぶやきをカタチにしていくことが大事。市民のやる気をそこで引き出していくものであると良いと思う。
- 飛騨高山のように1ブロックを昔のように戻してしまったり、一つのまちづくりの中で観光の目玉にした。
- 今住んでいる人と、昔から住んでいる人とは、意識の違いがあって、鎌倉ではそれがものすごく大きくて、対立が起こる。これは横浜などとはちょっと違う。
- 昔は閑静で良い所だったのに、何？軽井沢じゃない？のようなところがあり、それがどんどん広がっているの、どこかで止めたいというのが市民の意識にはある。住みづらい。街をコントロールするというのは行政としてはとても難しいこと。
- 街をどうするかが大切なのに、これは県道だから市は何もしませんかではなく、鎌倉市内にある道路は全て市がイニシアチブを取ってどうするか考え、行っていく。例えば鎌倉の道路の街路樹は何が良いか、そういうことも生活に影響してくる。

- ・でも主体は「市民」。今の話からは行政が主のように聞こえてしまう。この条例では「市民」が主体でやっていく。それによって関わる責任が行政であったりする。
- ・見かねた市民が自分達で植えていくということもある。その見かねても自分たちの街がこうなったら良いなという思いから植えているのかも知れないし。
- ・その人の発している思いは何なのか？⇒公園課やみどり課などがあって、それが市内全ての山から管理できているのかというと、それが無いから、ここの通りは私たちが草刈りをしましようというのが自治で出てきた。でもそれはそれで良い気がしている。
- ・そもそも役所の仕事でしょというマインドがおかしい。役所がやらないから自分達がやってやるという意識がおかしいと思う。
- ・必要だと思えばその人がやれば良い。それを後押しする条例。職員の中でもそういったことに対して動きたいという方もいる、そういう職員が動きやすくなるための条例。
- ・例えば、あるエリアに市が入ってきて管理をしていこうという場所があって、子どもたちが楽しく自然と触れ合うため積極的にやっているけれど、市の管理になると色々な業者が入ってきて、変に整備されすぎてしまう、公園化されてしまう懸念がある。そういう意味ではやはり市民発というところが重要。
- ・そういう意味では「市民」はいっぱい居る。その市民がやる気、それに呼応して動ける事業者であれば良いが。
- ・「自分事」は入りたい。自分は市民であったり、職員であったり、議員であったり。通勤、通学している人も市民に入る。
- ・鎌倉に会社をつくりたいとか、移転させたいとか、ここに通いたいとか。土地がある所がまだあるが、そこに企業を呼べるかどうか。これも街づくり。今住んでいるままでは、高齢化するばかり。だから将来ビジョンが必要。街にも新陳代謝が必要。
- ・今の話から思ったのは、市民が自主的に活動している街は色々あるが、その間の調整は誰がやるのか？目に見えて分かりやすいのは、商店街の街路灯の例。基本的には自分達でお金を出し合って作っている。防犯灯との違いは、全てオーダーメイド。同じ商店街なのに異なる。でも商店街に関わっていない人達の間からは、どうしてバラバラなのかと映る。もっと整理して同じようなデザインで通りごとに揃えた街路灯にすれば良いのと思う人も居る。そういったところは行政で音頭を取って出来ないのかという意見もある。出来るかどうかは別の話。
- ・行政側がやったらという話の方向は、いつ誰がやるの？ということがある。ただその調整役が行政かどうかというのは議論が必要なところ。商店街の人達からするとあれは自分達の思いで作ったものだというのがある。自分たちの思いの中でこれが一番良いと思って作ったという意見があるはず。この地域には謂れがあってそれに相応しいデザインで作っているというのもある。でも知らない人を見ると、せっかくの1本の道なのにといい意見も中にはある。そこの部分の調整は市民間で調整が出来て、こうしようとなれば一番良いが、行政がすれば良いのではという意見を発信する人もいる。

- ・市民の調整はやはり市民がやる。そこが中間支援組織の役割でもある。商店会にも連合会というがあるので、本来そこが調整役。
- ・全体の調整役は連合会だが、たぶん個別の調整は通りごとに任されていると思う。考え方は色々あるので、物理的な見方と総体的な見方によって異なる。
- ・地域によってどういう街にしたいかによって、どの考え方を取るかということがある。究極の所、皆がどういう街にしたいかということが大事、重要。
- ・入れたくない表現…市民活動、協働という理解できない人が出てくると思う。既に活動している人達にとっては共通語だが、何もしてない人にとっては分かりにくい。
- ・市民活動は他の言葉でいうと？この検討会に参加する時に最初にした質問は「市民活動って何ですか？」です。何について話して良いか分からなかったから。専門的な言葉を使わず、平易な言葉で。いっそのこと英語で書くとか。
- ・市民活動は市民運動などの政治的な色合いと勘違いされる。市民活動を他の言葉で表現すると、街を良くするための活動。
- ・読んだ人が自分のことと感ずる言葉であってほしい。「市民」となると何故だか分からないが、自分は外れた気になる。ちょっと遠い感じ。
- ・「あなた」は？⇒条例の中で「わたしたち」だと「あなたたち」になるが、「あなた」と言われると「僕」ですかとなるから、それも有り。
- ・鎌倉の歴史を大事にしたい。里山を大事にするなど。
- ・歴史については、鯖江や他市どこにでも書かれているし、歴史のない街はないので、逆に要らないかとも思う。
- ・昭和の初期に大船が田園都市計画で出来上がった街。そこに技術を持った人たちが入ってきた。鎌倉は地域性がはっきりしている。腰越、深沢、旧鎌倉など。
- ・役割分担で市の役割が信用保証であるなら、市民の役割で、主役で全部やる。やりたいことは、自分でやる。主体は市民。
- ・他市の見ると、今までがあつて～、今があつて～、これから～について書いてあることが多いが、経過は要らなくて未来のことだけを書けば良いのではないか。
- ・市民が主役はなかなか言葉で良いものがなく、市民がスタッフ、市民が出演者、市民がランナーとか、金メダリスト？
- ・絶対譲れないもの。
「主体＝市民」基本は主体は市民。行政は信用を得るための補助的役割。
「誰が見ても明白」
「日本一短い条例、前文」そぎ落とし、そぎ落として、短くする。歴史のある街、自然に囲まれた緑豊かな街は市民憲章に書いてあるので、この条例ではむしろ「人」に軸を置いて書いていかなければならない。「日本一短い」が大事、キーワード。
- ・自分事とは。他人事の反対という意味で使い始めた。身近に感じて、自分の思いで表現出来たり、行動出来たら良いということ。

- ・極小的な例でいうと、何十年もずっと落書きを消しているおばあちゃんが居て、それは行政の仕事と言えばそうだけど、行政の仕事と言わずに、自分で消していく。それが自分事だと思う。住宅で言えば、落ち葉があれば自分で掃く。それが自分事。ついでにお向かいさんのも掃いてしまえば、それが市民の活動の一番の基本。
- ・若宮大路の段葛は、八幡宮の持ち物だけど、各商店街が個々で水まきをしている。それも自分事。八幡宮がお金を払って人を雇ってやれば良いことを個人がしているが、昔から地元の人に来て水を撒いたりしている。地元の人が当たり前のようにしていたこと。自分の身の回りのことは自分です。それが基本で、それを皆の為に広げることが市民活動となる。それが途切れてきているから問題となる。ごく自然なことに立ち返った方が良いような気がする。文章にするとこれをストレートにはしづらい。
- ・結びつきを深めていくためのステージを作っていこうということは概念としてあっても良いと思う。
- ・100人居れば100通りの考えがある、それを変えることはできないが、日常的にボタンの掛け違いが起きない街にする。ボタンの掛け違いをする前にどのボタンにするか話し合おうという街にする。その為にはママが必要。そこに対話の場もできる。それはプレイス（場所）ではなくステージ（場）である。
- ・この場、市民活動推進条例を作るということを話し合うステージ。そのステージを作らましようというのが必要。
- ・ステージに上がりましょう、上がる努力をするのが大切。
- ・ステージに興味をない人に興味を持ってもらう。自分から興味を持ち主体的に動く。
- ・ママはあなたやってくださいというものではなく、自ら生まれてくるもの。
- ・対話というと一対一の感じがする。別の言葉考えましよう。話し合い。
- ・ママは対話の相手ではなく、つなぎ役。
- ・常にこのステージを作って課題解決をして、こういう場を持っていくのが、この根本だということの前段で謳えればいい。
- ・条文と前文を一緒にしてしまっただけで簡単で分かりやすい形で市民に示していく方法もあるのではないかと。何故かという、条文という形をとるとどうしても堅苦しいものになってしまっただけで面白味がない。
- ・皆さんから熱い思いという良い言葉出来たが、条例という形をとったことによって、それが冷めてしまう。伝わらないということを危惧する。
- ・前文、条文という形を取るにしても、市民に分かりやすいものにする必要がある。
- ・自分事として捉えられるようなものであって欲しい。
- ・他の市とは全く違うということアピールしたい。
- ・そういう鎌倉の特色があるということを知ってもらい、今後の活動が地道に繋がっていくということをアピールしたい。
- ・「市民」について、「市民」は、少し古い。新しい言葉を見つけるのも一つだが、「市民」

というのは「みんなが主役」ということから考えると「わたしたち」、「わたくし」。

- ・職員の方が現場に出ることがとても大事だと何度も出ている。でも職員には重責、プレッシャーが大きくなる中、私たち職員はこうありたい、こうしたいということを前面に出すことによって職員の負担が減ることにもなるではないか。
- ・それが市民の方、地域の方、事業者の方との繋がりが出来ることになる。職員も市民も一緒につくっていく。
- ・職員も地域のボランティアとして一緒に入っていけるものだとそういう目線を皆が思ってもらえるようにしたい。勇気を持って市民の為に街にでよう。だから、市職員を温かく迎える空気感も必要。
- ・始めたら大変かもしれないけれど、1年、3年と重ねるごとに職員も主役となって関わっていくことが大切。壁はあるかもしれないけど、まずは実践してみてそれから考えようではないかという形で進めれば良いのではないか。
- ・市民と職員が話し合うということを義務化というよりは、話し合う場を、テーブルを作ってしまうという方が良いのではないか。
- ・「(市民は、) わたしたちここで生活している者は、皆ための街づくりを進めます。わたしたち鎌倉市職員は、そういう地域で生活する人がこのように暮らせるように努めます。」のように市民の項と職員の項を一緒に書くことによって短くなる。
- ・鎌倉には立派な文人や芸術家もいるので、そういう方々に条文を考えてもらう。半分冗談かもしれませんが、面白い取組をして目立たせよう。
- ・この条例を作ったことによって、市民に実行してもらうことが目的かもしれないが、子どもから大人、お年寄りまで関心を持って、育っていくという視点から考えると問題提起を呼び込むような、実際に活動をしている人達に行動で持って手助けできなくても、応援をもって手助けすることでも良いのではないか。
- ・個人、団体とか区分することなく、皆が関わって鎌倉を思い、皆で作りに上げていく、また私たちが作ってきたという自負をそのまま分かりやすい言葉で活かすような条例にしたらどうか。
- ・「前文」について、鎌倉の歴史的なこと、景観については「市民憲章」に載っているのだから、敢えて「市民憲章」を上書きする必要はないのではないか。また主体が市民であるということをやさしい言葉にしていく。
- ・鎌倉は歴史がある街だが、歴史は古いものを理解しがちだが、新しい歴史もある。今作る条例はこれからの鎌倉を創る。先のビジョンを描けるようなものにしたい。今後の鎌倉のデザインがあって、そういうものを前文に含めると良いのではないか。
- ・「わたし」は言っている人、「あなた」は読んでいる人となりより身近に感じるのではないか。語りかけられた方が自分事に感じるのではないか。使い方は難しいとは思いますが。
- ・やりたいことをやるのが市民活動、でも同じことをやっているが、みんな多少の意見の違いで団体が複数ある。それを対立しないように上手く繋げる。その為には事前に橋渡

しをして繋げておく必要がある。

【条例の構成】

- 皆さんの思いを抽象化して言葉にまとめて前文と条文を一体的にして分かりやすくしてはどうかと思う。配られた資料からは枠で括った部分は素直な表現でとても良いと思った。何条となった途端に面白くなくなっている。それは他市を見ていると感じたこと。鯖江も良い条例だと思うが、本当はもっといい言葉がいっぱいあったのではないかと思う。法制担当に作らせると面白くなくなってしまう。皆さんのいい言葉をもう少しまとめてはどうか。
- また敢えて何条という形を取らずに、理念条例なのだから前文と条文に一体にしたものをA4サイズ一枚にまとめて載せた方が良いのではないかと思う。条文形式は本当に必要なかと思う。何条と分けていくと、市の役割、議会の役割、市民の役割となつてどこか他人事になってしまうのではないか。役割を条文形式で分断してしまうと皆さんが言っていたこととずれてしまうのではないかと思う。
- 前文の中に全てを盛り込めないのかと思っていた。
- 理念条例なので、各条には市はこうしましょう、市議会はこうします、市は努めなければならない、など、条文にすると「〇〇は～をするものとする」という形式になる。義務感のようなものになってしまう。どうしても条文にしたいのであれば、各条の語尾を「～します」にすると良いのではないか。
- (条例たたき台に対する意見として) 市の役割として3条～6条まで市の役割についてとなっているが、基本理念の次に市民の役割についても先に入れておいた方が良いと思う。鯖江では、市民がやるべきことを具体的に書かれている。鯖江ブランド、鯖江のふるさとの産業など、具体的に書かれている。また主語が「わたしたちは～」を強調してかかれている。市の役割は最後に1～2行くらいにして、市はこういうことをやります、とか、バックアップするとかで良いのではないか。それが市民が主役の条例であるということ伝えていていると思う。
- 条文の長さについて、長いことが良いことではないと思う。如何にA4、2枚に収めるか。鯖江はとても凝縮されたものになっていて感心する。せいぜい2枚が良い。これを議会に出すと、何だA4用紙2枚か、中身があまりないじゃないか、と指摘を受ける可能性もあるが、検討会を重ねた中で色々な意見が出ていたことをよく説明すれば、これが濃縮されたものであると分かってもらえる。市議会議員たちはまずこれを読んでケチをつけることが第一だと思っている。そこをまず納得させる必要がある。
- 指針や、解釈の部分で時代に合わせて運用していくのが良いかと思う。
- せっかく条例を作るのなら、縛るだけ縛ったものを作った方が良いのではないかという意見を聞くこともあるが、そういった条例にすると他市と同じようなものになるのではないかと思う。

- ・他市を見ているとしっかりやることを書いてあるけれど、それで何が変わるの？それで人が動くの？と思ってしまう。それでは人は動かないのではないかと思う。
- ・今からどういう縛り方が良いかは分からない、動き出してからしか分からないことがある、その時にもうちょっと縛っておいたら良かったと思うなら、最初から緩めにしておくのも一つ。後で増強していく。理念条例にしておいて、実働するのはその中の基準にしておくなど。
- ・縛り方とは具体的にはどんな縛り方があるのか。⇒例えば市長が、市が～責務。など語尾に“しなければならない”“するものとする”とかになっている。理念条例なので、そういう表現にはなっていないが。
- ・「目的」⇒「この条例が目指すもの」のような話し言葉的なものでよいと思う。
- ・文章が難しい、ということでは、市内在住の文豪の方に書いてもらったという案を出してみる。
- ・市民は～、市は～と一文にして、対で表現していくようにする。市民と市の条項を分けない。
- ・前文だけで終わってしまうと逆に市民宣言みたいになってしまう。
- ・各方面に広める、という意味でいうとこれは標準条例、モデル条例のようなもので全域を網羅したもの。
- ・楽しい前向きな条例にしたいという意見と、逆に楽しいだけでは続かないという両方の意見があり、やはり色々あるんだと思った。これだけ盛り上がってしまうと、施策側がしっかりしていないと受け止めようがない。
- ・皆で指針を考えてはダメなのか。
- ・皆で一緒に作った条例というのは近隣ではあまりないかも。茅ヶ崎市はコンサルを入れて大変だったと。
- ・鎌倉でこういう条例が出来るのも衝撃的。
- ・これまでこの条例がなくてもやってこられたが、これが出来たことにより、広めて、広く活動が出来るようになることを目指したい。
- ・これは市役所が動くための条例。
- ・確かにこれだけになってしまったのかという所はあるが、内容的にはこれで読みやすいと思う。
- ・市の役割のみで市民の役割が載ってない。(たたき台に)
- ・役割分担がテーマなので市と市民と対比的に作ることが分かりやすい。それがここ文章の役割。
- ・「前文」という単語も「前文」でなければならないのか？ そんなことはないと思う。「目的」とかでもいい。
- ・条例の立て付けで「前文」と言われた時点でもう・・・。
- ・条例には「前文」はなく、「目的」「主旨」とかで、そこの作りに一番根本の部分が入っ

てくる。

- 市の業務を行っていて、例えば補助金について考える時、当てはまらないことが出てくると、条例の主旨、目的に立ち返って、判断をしていく。一番立ち返る部分。なので、絶対変えてはならないものをきちんと書いておくことが必要。ならば「前文」という言葉ではない方がよい。ひと言でいうと「基本的な理念」。
- 市民活動の特徴づけるということで、地域の市民を特定するために「前文」を付けられた所が多くて、それに習ってこのたたき台にも「前文」が入っているのではないかと。「前文」で市民活動の部分を作って、あとは「目的」「基本理念」と続いて、従来の形にしているのではないかと思う。
- 分かりやすく言うと、基本的な考え、基本となる考え方。では「宣言」でも良いのか？「前文」というと重要な何かがあって、その前置きというイメージがある。でもここが立ち返る部分で重要だということになると、ここがメインになるのではないかと。なので「前文」という単語ではなくて「基本理念」や「宣言」という言葉が良いのではないかと思う。
- 他市の「前文」を見てみても地域性を謳っている。「私たちの街はこういう街である」というような。
- 「宣言」となるとそのひと塊で完結してしまう感じがする。
- たたき台の条文の中に「基本理念」が入っているので、部分的には繰り返しになる。
- 横浜で、「協働条例」を作った時に議員さんが議員立法で作った。議員さんがたたき台として持ってきたものには「前文」がなかった。すぐに条例が始まっていた。でも最初で考え方がないと、ということで「前文」を付けた。もちろん「主旨」「目的」とかの項はあるが、だいたい「前文」の所に考え方とかは出ているものなので、それを皆は読む。他の箇所は読まなくても、その部分「前文」は読むから、それはちゃんと作ろうよということで入れた。目的とか主旨の所にはどこでも同じようなことがさらっと入ってはいない。でも「前文」は一応文章として書かれるので分かりやすい。
- 「前文」というのは、「思い」である。「思い」をそこに入れる。一番分かりやすい大和市では、新しい公共と市民へと書いているが、そこに鎌倉らしいことが盛り込めたらと思う。
- ただ「前文」という言葉良いとは限らない。
- 街の特徴のようなことを盛り込んで作りましょうという感じでしょうか。
- ここに居る人達は、割と条例に興味がある人達。でも興味の無い人達にも伝えなければならぬということを見ると、どんな人にも分かりやすいようにしなければならない。条例も見ないし、市民活動もやってない人に「前文」と言った瞬間に、もういいです！となってしまわないように。
- 「前文」という言葉自体に問題があるかも。この話を聞いていると、キーワードは誰が見ても明白な文章でなければならないと思う。

- ・条例そのものの話ではなくて、どう伝えるかの話になるが、良い条例であってもそれが届かなければ意味がない。「日本一短い条例」となるとメディアに取り上げられるので良いと思う。小学生でも覚えて言えるようなものが良い。
- ・次の段階で宣言だとか、スローガンとか、どういう表現にするか？
- ・普通の市民も動きやすくなるように。普通の市民が要望を出した時、職員がそれをやりたいのにやりづらいということ無くしたい。条例を根拠に協力できるような仕組みにする。
- ・どうして活動が活発だった所に条例が無かったのかということを手にとりて面白い発想をぶつけば、マスコミや市民への宣伝効果にも繋がる。
- ・今まで条例がなかったことをビックリしてもらいたいような作りにしたい。
- ・条例の形の話でも神奈川県内にあるものと同じような形にする必要はないのではないか。作った後は、やはりこの条例を作った良かった！と思って定めてもらうのが一番良いと。
- ・例えばこの条例は一つのモデル条例、標準条例とし、これを受けた各主体、高校生、中学生、小学生などが「自分達の条例は～」という形で、焼き直す。単に焼き直すのではなく、自分たちの言葉に置き換えてもう一つ作り上げるような、そういうきっかけ作りになれば良いのではないかと。また作り上げたものを数年に1回、鎌倉市で大会を開いて発表し合うといったものにも繋げられないか。
- ・例えば「自分達条例」「高校版」「町内会版」「株式会社版」というのも良いのではないかと。
- ・鎌倉はこれから福祉教育に関しても充実させていかねばならないので、学校教育の中にもNPO活動について活発化させていって欲しいという思いも込めていきたい。
- ・条例を作った後の効果を発表する場を持つことも大事ではないか。
- ・条例を作った後のどのような形で動いていくかも大変だし、事務局が予算を確保したり大変だと思うが、条例も固定ではなく、時代とともに変化していくもの、それとともに主役の構成が少しずつ変化していくこともあるのではないかと。
- ・そういったことも踏まえて効果を発表していく場を定期的に持つてはどうか。
- ・優越というものではなく、皆がこの条例をどのように活かしているのかを出してもらおう場。そういう機会作りも必要。

【基本理念】

- ・お互いの立場も分かりきってないから、居ないところで批判し合うということが起きる。同じテーブルに着く場が大事であるなら、そこは縛る。一緒にやれ、という縛りではなく、一緒にしてくれる機会を作る、ということ縛る。
- ・地域に出てこいと散々言われた。計画作る時に出て行ったら、やっぱり受け入れてもらえた。出ていくことで悩みを共有できるという感は全然違う。出たときは大変だけど、3年後には変わってくる。
- ・全員から受け入れられるわけではないが、大半の方から受け入れられる。受け入れてく

れる人がいる、ということがすごい。

- ・職員が出てきたらちゃんと優しく受け止めましょう、と入れる。
- ・職員に対しても共感を持ちましょう。職員は悪者ではありません。皆の為に来てくれていてという認識で温かく迎えましょう。優しく受け止めましょう。というスタンスは必要。職員も育っているんです、とか。

【市民】

- ・条例とすると「市民」をもう少し柔らかい言葉にしなければ ということになるが、これくらい考えて出ないのだから、他の言葉は見つからない。今まで出てきた内容を繋げて、活字をどう応用するかになるので、そこは任せれば良いのではないかな。
言葉を置き換えることに時間を取るより、今まで出てきた意見をチョイスする方に時間をとる方が良いと思う。
- ・「市民」に変わる言葉として、「鎌倉人」「鎌倉民」としてもしっくりこない。ニューヨーカーみたいにカッコいいものはないかと思うが思い浮かばない。「市民」ではなくせめて「鎌倉市民」と呼ぶのが良いかと思う。
- ・あるいは「市民」という言葉を止めてしまって、鎌倉で生まれ、育ち、学び、生活する、というような表現が良いように思う。鎌倉ならではの呼び方を独自で考えるのは難しい。
- ・「市民」に変わる言葉を考えることは難しく、出てこなかった。

【周知の方法】

- ・今回全員が参加できると言っているけど、市民活動やボランティア活動をしている方たちしか話が出来てない状況なので、いかに巻き込むかが課題。中学校、高校でも身近な問題から市民活動に繋がっていくという授業をやってくれれば良いと思う。
- ・自分事にならないのは、興味を持たない、興味を持つ気もない、からなので、若い人達が興味を持っているSNSを利用して提供することも必要ではないか。
- ・まずは条例を知ってもらって気づくことのきっかけにしてほしい。
- ・この条例が出来たことをお祭り騒ぎして知ってもらおうという意見があったが、それも一つの知ってもらうことになる。
- ・条例が出来たら各戸に配布する予定はあるか？広報かまくらだけではつまらない。⇒広報かまくらが各世帯へ配る手段となっている。切り取り線を付けて、きってもらって台所にでも貼ってもらったらどうか。
- ・学校の皆さんに配るバージョンとか、各世代に応じた広め方をしたい。それぞれの学校版を学校教育の中に入れて作ってもらおう。これを元にして学校で作らませんか、福祉施設で作らませんか、という。
- ・私の条文コンテスト、にしてみるのも面白い。
- ・夏休みの課題でも良いかも。そう思うとガチガチの縛りを付けなくて関連付けて作って

おく方が、後々皆が考えやすい。次に繋がる気がする。意識付けのきっかけになる。

- ・「鎌倉にかかわるすべての市民が自分版をつくることを責務とする」など・・・
- ・人材育成という視点からでも出来ないか。アメリカでバンド活動があったが、各自がバンドに「私はこの条例に基づいて〇〇します」と書いてもらう。子供の出前授業などをやってこういうのを書いてもらうとか。
- ・高校生たちが夢中になっている例として、アカペラで歌って全国大会に出るとか、ロボットを作って出るとかがある。そのルール作りバージョンのようなものとして身近なものをこういう風に良く出来て自分達で考えてみましたよという大会をして育てるということに繋げる。
- ・子どものルールでもいい、自分たちでルールを決めさせるのが、一番自分事になる。子ども会館でゲーム禁止にしたら、子ども達からゲームをしたい！と言い出したので、自分達でルールを決めなさいと言って決めさせると4年間皆ルールを破らない。決めたルールにサインした子どもたちだけがゲームを出来るにしたら、みんなサインをしてきちんとルールを守る。それがだんだんバージョンアップしていけばよいのではないかと思う。
- ・条例を作った時に引っ掛けて話題作りにもしてもらって宣伝してもらう方法もある。「日本一長い題名の条例」「本文が少ない条例」とか目立つ形。何この条例！と若い人たちが反応する条例。

【施策等】

- ・行政側の責務書いてあることは重要。市民にお願いできることを出す。数値目標を出してほしい。
- ・市民は市民でやりたい人だけがやれる状態ではなくて、全員市民が参画できるツールを提供した方が良い。
- ・鎌倉市のNPOは340団体くらいはある。NPOセンターを使用するために登録している団体数なので実際はもっとあると思う。NPO登録団体は登録するようにしないと全体把握ができない。そのルールは条例にするのか、基準にするのかは検討が必要。
- ・どういう団体があって、どういう活動をしているかの把握も今の状態では本当に出来ているのか疑問が残る。
- ・人材バンクで繋げるにしてもどういう団体があるかをきちんと把握出来てないといけない。登録団体を把握することは急務だと思っている。
- ・全職員がボランティアとして地域に入れるような仕組みがあるといい。
- ・鯖江は、職員が地域ごとにチームを作って、そこでどういうことをやっているか、一緒に参加したりして実態をみている。そして1年に1回報告する場も設けている。とはいえ鎌倉で同じことをやればうまくいくかということそうではない。ぎりぎりの所で市民の協力があるというメリット感がないと難しい。

- ・条例を作った後、色々な効果を検証する場、反省や次に生かす場を設けて見直すことが必要。一年後では成果は出てきにくい、そうやって見直す意見は出ている。
- ・市としてやってみたこと、それがどうだったかを聞けるだけで、次また頑張ろうと思えるのではないかな。またこういう所が足りなかったとか、こういうやり方だと市民はやりやすいとか、そのテーブルで話せるといいのではないかな。そういうテーブルは、どういう場が良いのか？そこが問題。やはり市が良いのだろうか？
- ・市の事業をやりたい人が集まる日を複数作って、テーブル、カウンターをだして、各課があなたの所ではこういうことが出来ますか？ということを探ねてお互いに回って意図を募る。セミナーのような場があっても良いのではないかな。ブースがあったりするとい。それは予算を取る前にあると良い。その次の年の予算を組む前にそういう場を設ける。
- ・鯖江では成人の日を自分達で実行委員会を作ってやる。まだ大学生なので実績はないけれど、育てる事業としては良いと思う。鎌倉でも成人の日の実行委員会はあるので、こういうのに関連付けてやると面白いと思う。
- ・市役所の仕事も2～3割くらいを市民に出せば変わってくる。
- ・補助金の財源として、鯖江だと75万円はふるさと納税であと半分は市から持ち出しにして150万円としている。そしてスタートアップ、これから始めようとする団体への補助制度と、ひとつ上のステップへの団体への補助制度を分ける。そうやって市民団体を育てるということは大事。
- ・横須賀では自販機で賄っている。300万円くらい。自販機の売上を市民活動のファンドにしている。
- ・社協は飲料メーカーに声をかけて、福社会館などの自販機1本あたり7円を共同募金に入れている。共同募金に入れているので鎌倉を優先してくれる。
- ・始めが肝心で、きっかけや、自分から出てくるのが大事。話題になる形、やってみようかということはどうやって演出していくか、試作としてやってみるとかが大事。
- ・鎌倉の思いは、個々それぞれにあるものだから定義付ける必要はないという意見があり、あまり決めつけられたくないとかある。そういうのを上手く利用して募金活動ができるのではないかな。
- ・たたき台の第6条に情報公開、市は市民活動及び協働の推進に活用できるような、積極的な情報公開や提供を行うよう努めます、とあるが、現在情報公開の基準というものを何か市で持っているか？⇒市が持っている情報を市民活動に活用しやすい形で公開しますということ。現在はどういう形が良いか今情報集めをしているところ。個人に関する情報というよりは、市がどういう状況に置かれているかという情報が統計的に見れるという意味での情報公開。
- ・色んな活動していて、市に尋ねても個人情報というのが邪魔をして得られないことが多い。活動していてそこにぶち当たる。

- ・個人が同意すれば市も提供できるが、人によって違うのでそれをどうするか。
- ・この条例で鎌倉市の個人情報の運用については、NPO活動についてはこうすると定めてしまえばこちらが優先になるが、審議会に掛けてもなかなか通らない。ハードルが高い。こういう不安はどうするの？どうやって防ぐの？ということを決済する手段も持たないと難しい。
- ・市民活動を育てるには、トライアル事業的なものがないと厳しい。
- ・譲れないものとは？今までの話からすると「対話」。皆思いはあるから、話し合っていないと次のステージに進まない。市民と行政の「対話」もあるし、市民同志の「対話」もある。違った意見同志の対話が必要。
- ・街の未来を語れる場。この検討会のような場。こういう場が位置づけられると良い。こういう意見交換出来る場が必要。以前にもNPOセンターがそういう場であればという意見が出ていた。
- ・市民が自由に出入り出来て、行政も出入りできる場。今のNPOセンターにはそういう場がない。事務所しかない。
- ・今、きらら鎌倉のロビーをそういう場にしませんか？という意見が教育委員会から出ている。今少しそれを進めている。通常使っている人もいるので話し合いの場にするのは難しいかもしれない。きらら鎌倉をいつも使っている方々が使う場所がなくなるとクレームが出ることもある。お弁当を食べている人、待ち合わせにしている人、様々な人がいるので難しい。でもそこを模様替えして出来ないかと。
- ・市民団体が使える場所がないので、今度出来る大船の施設にはそういう場所を作って欲しいという要望を出している。
- ・対話の場であって、場所ではないと思う。カマコンは集まる店がある。それは店という場所が重要ではなく、そのママ（店主）が人々を引き合わせる役割を担ってくれている。単に場所を作っただけでは、市民が来たというだけで来た市民同士が繋がってはいかない。このママはコーディネーター。ママが大事というのは、コーディネーターが大事ということ。分かりやすい表現。
- ・場所も場も両方必要。場の持つ力も大きい。キーマンが必要。NPOセンターに行政の職員が居るとそこに集まっている団体の方との間で話ができる。
- ・コーディネーターが居れば、例えば場所はカフェでも、海岸でも、砂浜でも良い。
- ・これから行政はお金があるわけではないし、正規職員も少ないので、行政に期待はできない。市民がどこまでやるかが重要。そうすると行政の役割も変わってくる。以前のように全てをやらなくてもよいのではないか。
- ・行政の役目はお墨付き、信用をもたらすことになっていくのではないか。
- ・9/3に防災のイベントをするが、予め市の後援を取っている。それはそういったイベント開催時も周囲からは何かとクレームが出るもので、その時に「市の後援を頂いてます」というと納得してもらえ。市の役割は信用保証。

- ・防災の意識付けをやりたい！という公共性が高く防災のことだから、市がやれば良い。というのではなく、やりたい！と思う人がやれば良いこと。そこで、市にしか出来ない事があれば協力しますよ と言ってもらえれば良いことで、どこがやるかより、市との関係性が大事。
- ・庁内調整は市の役割。各課を越えて庁内調整を。
- ・市民の役割は主体的に動くということだけど、何かあれば一本化する⇒一本化は難しい。
- ・行政の人事異動は、職員は4、5年。管理職で2~4年。担当で5年前後。30年勤めると様々な部署へ異動する。色んな部署へ渡り歩いた人たちが縦だけでなく横の繋がりもできるから調整役もできるのでは。退職間際の人に調整役をやってもらうという案も以前のワークで出ましたね。
- ・行政側も市民側も窓口がどこになるのか？行政側もまとめて誰かがやってくれるのが良い。誰に話を繋いだら一番早くその事柄が進んでいくかという話が前にも出た。個人的にあの人ならばと選んでいた。その人がいなくなると誰に話して良いか分からなくなる。そういう部門があればその部門にそういったことに長けた人、得意な人が集まるのが望ましい。
- ・市役所の窓口には局長をやったような人を置いておくが一番分かっているから、一番良いと30年前にもそういう話が出ている。
- ・日常的にそういう場があれば、自ずと各自で判断できるようになるのではないか。カマコンでいうと、店に週2回夜集まってきて話をする中で、誰が何をやっている人かつかめてくるので、誰かが困っているとか、何かやりたい というと直接連絡を取ってもらう。
- ・役割を決めたことによってその人、そこ以外は出来ないとか、頼りすぎてしまうと困る。依存になってしまう。
- ・役割を明確に定義しておかないと、例えば中間支援組織がすることになっているから、任しておけば良いということになってしまうおそれがある。その整理が必要。
- ・色んな部署で経験を積んだ職員たちがつなぎ役を担ってくれる、そういう部署があると良い。個人レベルでは、その人が居なくなると機能しなくなるので、部署が担ってくれと良い。

【中間支援組織】

- ・ある程度調整する機能がないと中間支援組織とは言えない。市民の発意を大事にして、それを企業なり、行政に通訳するような役割も必要。逆も市民側に行政の意向をきちんと伝えられる、通訳できることも必要。そこで求められることは、頼られる存在であるのかどうか。そこに相談して、情報や、ノウハウを持っている存在であるかどうかは1つ。
- ・中間支援組織は裁判所ではないので、もめている所を仲裁するのが役割ではなく、どう

解決していけば良いか、助言なり支援してくれる、相談を受けてくれることが重要。

- 中間支援組織の中にママのようなコーディネーターが必要。事情通の人が居ると良い。NPOセンターには事情通の人がいないので行かない。
- 昔は地縁組織にもそういう事情通の街の相談役みたいな方が居た。それは良くも悪くもそういう人が居なくなった。勤め人が増えて地元べったり居る人が減ったというのも要因。それとそういう方が高齢になったことも。またしがらみを嫌がる時代、世相でもある。
- 市民とか、職員とか、中間支援組織とか、カテゴリリー、セグメント（区別、区分）を切るのが果たして正しいことかどうか？ 誰もが市民だし、誰もが中間支援組織。意外と市民団体が中間支援組織的なことをやっている所もある。傍から見ていると立派な中間支援組織ということもある。
- 人ベースではなく、そのプロジェクトをベースにして、何かしたい時に誰が中間支援組織となって、誰が主体となって、が決まるので、案件ごとで異なる。案件ごとに変わるのが一番良い。それが自分事、皆がそれぞれその案件ごとに色々な立場になって貢献できることをする。自分は中間支援組織なので、プレゼンはしません というのはちょっと違うと思う。
- 中間支援組織で全ての分野において熟知するのは無理がある。難しい。
- 昔は中間支援組織では、どこに聞けば良いか、誰に聞けば良いかが分かっているだけで良いと言われていた。昔はNPOセンターはどこに誰がいるか、どこに行けば良いか、を答えてくれる所であった。案内できることが大事。それがママ（コーディネータ）の役割。
- ママは良く知っているけど、あまり表に出てこない人。それは大事。プロジェクトごとに顔出す必要はない。
- 都市と道路のような関係で、都市と都市を繋ぐ道路が多いとスムーズに行けるように、何かやりたいことがある時にルートが多いと物事が円滑に進みやすい。道は人間関係。人間関係を如何に円滑に増やしていくかが大切。
- キーワードとして、「ママが大事」というのは欲しい気がする。分かりやすい。表面に出てこないで人と人とを繋げる。
- 場であって場所ではない。プレイス（場所）ではなくて、ステージ（場）。
- ママの役割→表に出ない。カウンターより前には普段出てこない。例えばママがAさんと話していて、別な日にママがBさんと話していて、今度Cさんが自分のやりたいことをママに話した時、それならばAさんが知っていますよ といっって人と人を繋げる。それくらいのことで良いのではないか。
- 調整とは、大ごとになる前に治める。調整の意味が違う。もめ事の調停ではなく、もめる前に調整して次の段階へ繋げるともめない。
- もめる前に対話による解決をしておくための調整。

- ・行政にとっても各団体が調整によって一本化してくれることは重要なこと。
- ・裁判所ではないので、もめごとの整理調整する場所が中間支援組織ではなく、窓口として繋いでもらうことが重要。
- ・早い段階でママが機能していれば、もめ事にはならない。
- ・別々に立ったところは難しいが、最初から同じプロジェクトとして立っていればそこまでもめない。
- ・もめること自体でもう協働はできない。もめることこそ協働しろ、ということかも知れないけど、まずはもめる前に繋げる仕組みを作る。そういう流れを作るのがスタート。
- ・もめる時は、たいていボタンの掛け違いから生じるから、掛け違いにならないようにすれば良い。
- ・中間支援組織というと大変だけど、「ママ」というと楽しんでやっているように見える。中間支援組織も名前を変えましょう。
- ・昔は中間支援組織のことを「インターメディアム」と言っていた。“仲介組織”。
- ・仲介では裁判所のような感じがする。だから仲介（インターメディアリー）ではない。もめ事の仲裁は仕事ではない。
- ・「仲人」は？平易な言葉でいうとそうなる。

【委員会】

- ・評価委員会を作って条例に入れましょう、となると条例が出来た時には実際に評価委員会が出来ていなければならないという堅い話になる。入れる以上は責任がある。予算はどうか、メンバーはどうか、集められるのか？そこが心配。そこも皆で考えて、時間かけてレベルを上げていくという形を取りたいと思うが、そうすると条文というのが合うのかどうか？
- ・この条例は育てていく条例として説明していかないと通らないと思う。内規や規則みたいなもの、構造を知る必要があるかも知れない。まだ条例の構図が見えていない。今の所、条例があって、そこで指針を作ると委員会を作ることを盛り込んで、指針の中では具体的な例えばNPOセンターならばどういう機能を持たせるか、市が市民に委託した実績とか、成功例を公開していくとか、具体的な内容を指針に書いていく。
- ・指針に書いたことが4月1日に全部出来ていくかと言えばそうではない。どれをやっていくか？ということを条例で設置する委員会の中で実行する順番などを検討していくというふうにしたい。

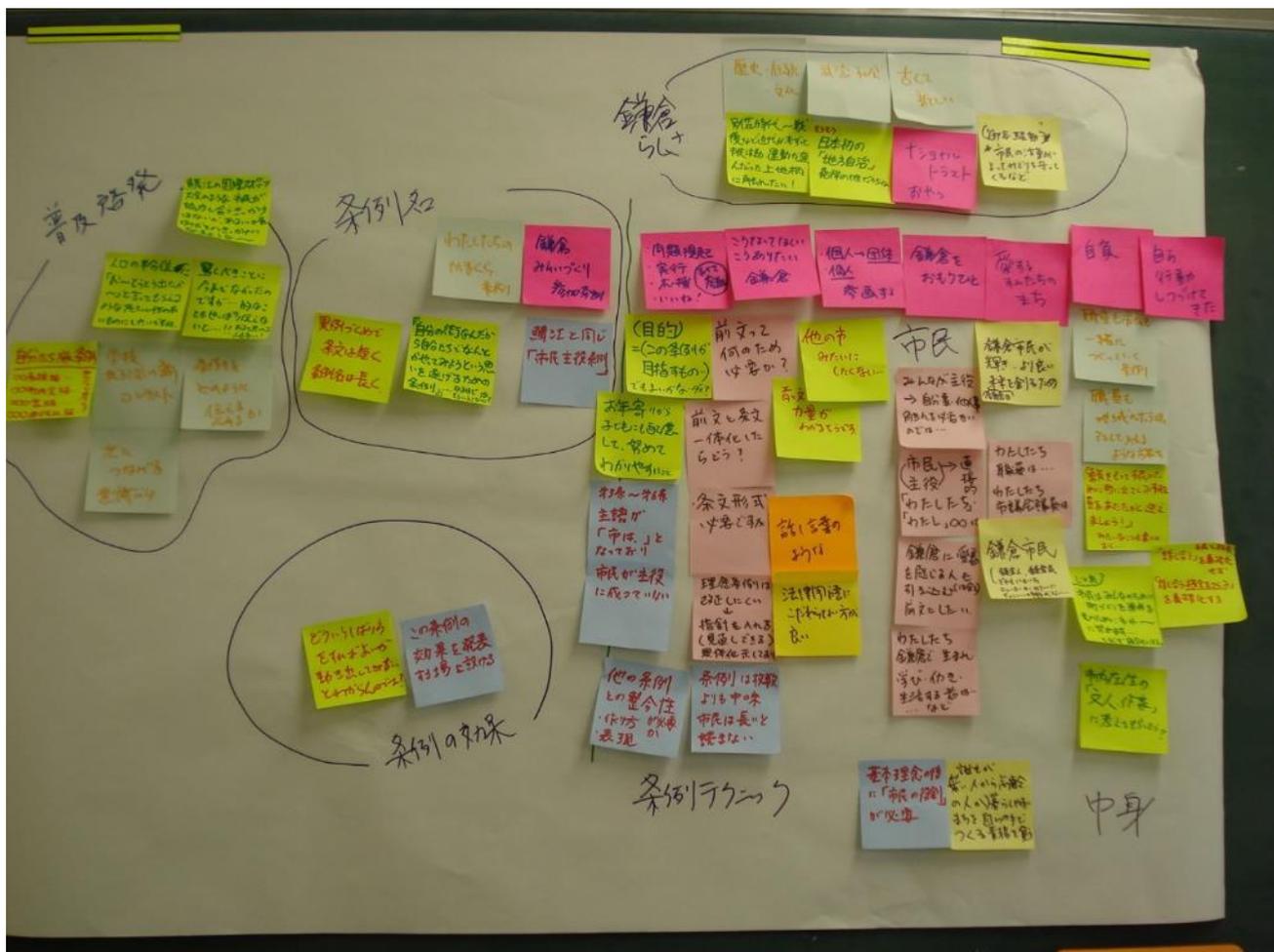
【見直し規定】

- ・理念条例はなかなか改正しにくい。理念条例は根本だからそれを改正することは廃止に近くなる。意見の中に3年か5年後には情勢も変わるのだからと変えるというのがあったということを踏まえると、各条項に分けても具体的なことは枠組みで解釈できるのだ

から、5~6項目ぐらい入れるか、方向性を文章で出して、解釈の中で入れて、2~3年ごとに直していくという形が良いのではないかと。

- ・後からでも直せる形にしておくのも方法かと思う。
- ・1年か3年ごとに見直しをするということは、縛る形の条例でも良いのではないかと。そこも1年なのか、3年なのかは意見が別れる。1年では成果はでない。

➤ チーム1ワーク



【普及啓発】

- ・鯖江の国際スポーツ大会のような市民が協力し合うきっかけはないか、あるいは条例がそのきっかけになるような～
- ・人口の半分位に「お～とうとう出たか～」と言ってもらえるようなアピール性の高いものにしたいですね。
- ・驚くべきことに、今までなかったのですが…的なこともやっぱり伝えないと…！！あると思ってる人も多い！
- ・自分たち版の条例 ○○高校版、○○町内会版、○○○家版、○○○株式会社版…みんなで

考える

- ・学校、我が家の条例コンテスト
- ・次につなげる意識付け
- ・条例をどのように伝えるか、認めるか

【条例名】

- ・わたしたちかまくら条例
- ・鎌倉みらいづくり参加条例
- ・異例づくめで条文は短く、条例名は長く
- ・『自分の街なんだから自分たちでなんとかやってみようという思いを遂げるための条例』…なるほど、そういうこと 感も
- ・鯖江と同じ「市民主役条例」

【条例の効果】

- ・どういう縛り方をすれば良いか、動き出してみないと分からんのでは？
- ・この条例の効果を発表出来る場を設ける。

【鎌倉らしさ】

- ・歴史、伝統、文化
- ・別荘時代～戦後など近代以来ずっと市民活動、運動が盛んな土地柄に触れたい！
- ・武家社会
- ・そうそう、日本初の「地方自治」発祥の地だからね
- ・古くて新しい
- ・ナショナルトラスト おやつ
- ・(御谷騒動)市民活動によってみどりを守ってくるなど

【条例テクニック】

- ・問題提起、実行、応援、いいね！すべて参画
- ・(目的) = (この条例が目指すもの…)でも良いかな…ダメ？
- ・お年寄りから子どもにも配慮して努めてわかりやすいこと
- ・第3条～第6条 主語が「市民」となっており市民が主役に成っていない
- ・他の条例との整合性が必要か。作り方、表現
- ・こうなってほしい、こうありたい鎌倉
- ・前文って何のため必要か？
- ・前文と条例一体化したらどう？
- ・条文形式必要ですか
- ・理念条例は改正しにくい→指針を入れる(見直しできる) 具体化示しておく
- ・条例は枚数よりも中味 市民は長いと読まない
- ・個人→団体 個人 参画する
- ・他の市みたいにしたくない

- ・前文で力量が分かるそうです
- ・話し言葉のような
- ・法律用語にこだわらない方が良い

【市民】

- ・鎌倉をおもう人
- ・みんなが主役→自分事、他人事触れる必要ないのでは…
- ・市民、主役→直接的「わたしたち」「わたし」〇〇は
- ・鎌倉に愛着を感じる人も(は全て)引き込む前文にしたい
- ・わたしたち鎌倉で生まれて、学び、働き、生活する者は…など
- ・愛するわたしたちのまち
- ・鎌倉市民が輝き、より良い鎌倉の未来いを創るため
- ・わたしたち職員は… わたしたち市議会議員は
- ・鎌倉市民(鎌倉人、鎌倉民 どれもいまいち) ニュー Yorker みたいにかっこいい呼称がない…
- ・自負
- ・職員も市民も一緒につくっていく条例
- ・職員も地域のボランティアとして入れるような方筆
- ・「勇気をもって市民の為に町に出てくる市職員をあたたく迎えましょう！」みたいなことも書いておく…
- ・じゃあ 市民はみんなのために町づくりを進める そのために市は～に努めます…と必ず…組み合わせにするか
- ・市内在住の「文人、作家」に考えてもらったら？
- ・自ら行動しつづけてきた
- ・市民と職員「話し合う」を義務化せず、「話し合う機会をつくる」を義務化する

【中身】

- ・基本理念の後に「市民の役割」が必要
- ・誰もが(若い人から高齢の人が)暮らしやすい街を自らの手でつくる責務を負う

- ・名称は平易な言葉で！ みんなの鎌倉をみんなでつくる条例
- ・「基本的な考え方」がよいのでは？
- ・市民の自主的な地域貢献活動を尊重することが基本。
- ・まちをよくする活動
- ・「宣言」はどうか
- ・スローガンの
- ・長期ビジョンの街のデザインは何か？
- ・ボタンの掛け違えがおきない街を目指す→ポジティブな表現に！！
- ・市民の調整を誰がやるの？ = ◎中間支援組織→中間支援組織の役割の定義
- ・市民に頼られる存在であるか
- ・◎対話→話し合いの場
- ・場であって場所ではない
- ・◎ママ(例:飲み屋のママ)が大事←コーディネーター、ファシリテーター
- ・(中間支援組織は)仲介組織ではない
- ・(中間支援組織は)もめごと(の仲裁)は仕事ではない
- ・市民間調整→市民、庁内調整→市職員 →窓口は誰？ 市民⇔市職員
- ・人と人とを繋げる。(中間支援組織は)表には出ない
- ・地域に「顔役」がいなくなった、しがらみが嫌がられる文化
- ・◎役割分担 市・市民
- ・市の役割→信用保証 庁内調整
- ・自分事 職員、市民それぞれ
- ・★主体＝市民
- ・市民が主役、市民がスタッフ、市民が出演者、市民がランナー
- ・誰を主語にする！？→あなた
- ・歴史 日本として、市民活動
- ・里山と海
- ・現在の鎌倉は古都を引き継いだ部分、近代につくられた部分、現代の生活の組み合わせで出来ている。
- ・文化的+創造性
- ・「市民」がいる街
- ・多様性があるからよい
- ・個性の尊重
- ・小さいものに大事な部分があったりする